

医療機関の皆様へのご案内

がんゲノム診療は保険診療上いくつかのルールがあり、希望者全員ができるものではありません。

ゲノムプロファイリング検査実施についての注意点を列記します。

1. 適応評価

1-1 標準治療が終了見込み、または治療抵抗性の悪性固形腫瘍

1-2 標準治療が確立していない稀少がん

2. 予後評価

2-1 自然予後 3 か月以上が見込まれ、検査後治療可能と考えられる

* 検査提出～エキスパートパネル（治療・情報開示検討会議）開催まで 2 か月前後を要するため、外来における患者説明まで至らない場合は、検査が完結しません。

3. 検索可能な検体

3-1 ホルマリン固定パラフィン包埋切片：がん組織量や固定状況により解析が不可能となるため、予め病理部への確認が必要（作成後 3 年以内、切片厚 4～5 μ m×10 枚、組織表面積 25mm² 以上、腫瘍細胞割合 20%以上）

方法：OncoGuideTMNCC オンコパネル、FoundationOne[®]CDx

3-2 血液：組織検体が提出不可能な場合

方法：FoundationOne[®]LiquidCDx（詳細は検査ホームページなど参照）

4. 紹介方法

4-1 当院ホームページ―医療関係者の方へ―FAX 予約システムのご案内―腫瘍内科あてに紹介状添付

4-2 紹介状は貴院の方式で結構ですが、がんゲノム情報管理センター（G-CAT）に登録するために必要情報を問い合わせることがあります。

5. 紹介受診後、エキスパートパネル結果を患者さんに説明し、紹介元担当医に返信

5-1 治療方法の候補が見つかる可能性は、約 10%です。

5-2 治療方法の候補が見つかって、保険診療で対応できる遺伝子変異であることや、実際に治療効果があることは、さらに低い確率となります。

5-3 臨床試験（治験）に参加する場合、国立がんセンター中央病院等を受診する必要があることが多いです。

先進医療や患者申出療養を利用する場合があります。

5-4 ご家族（子供、兄弟）も、がんになりやすい体質（生殖細胞の遺伝子変異）であることを知る可能性があります。遺伝性腫瘍の遺伝カウンセリングは、新潟大学病院の遺伝医療センターに紹介することがあります。

5-5 検査費用は検体提出時に 44 万円、検査結果説明時に 12 万円で、各々1～3 割の自己負担があります。

高額療養費制度の対象となる場合があります。

【問い合わせ先】

新潟市民病院 スワンプラザ内がん診療支援室

電話（代表）：025-281-5151（平日 9 時～17 時）